

がんばろう 南三陸町

復興第 3 3 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

志津川地区町づくり協議会「輝くみらいづくり部会」参加報告⑦

第3回志津川市街地団地まちづくり検討会

〔東団地〕 9 月 25 日(木) PM6:30 役場 2 階

・検討事項 ①土地利用計画について②盛土の安全性・法面保護・雨水排水対策③画地決定に向けて
店舗付住宅の集約については、出店の事業計画を提示を移転要綱に入れては？大きめ・小さめの店舎を集約した区画の配分を考える。

公園の在り方については、病院とケアセンターが東区の東に建設されるので、歩いて周回出来るような、一休み出来る公園配置を。(第 4 回に再度検討)造成地の雨水対策として、地下排水路整備はもちろん、調整池やポンプアップなど河川への排水を確実にする方策を図っていく。

高齢者に関しては優先枠はあるものの、10 世帯以下のグループでの希望には、区画選択の中で、最終的には抽選となる可能性が高い。戸建の住宅再建にあたっては、土地造成時間差があり、今後の検討課題である。

〔中央団地〕 9 月 26 日(金) PM6:00 役場 2 階

・検討事項 ①土地利用計画(街区形状の確定)②盛土の安全性・法面保護・雨水排水対策③店舗併用住宅の集約
行政区としては 280 世帯をどう区分するのか。5 の 1 や 5 の 2 の子ども会などのソフト面のつながりも考慮に入れて。はじめは「り災証明」があることが前提の申し込みながら、亘理町では 2 次募集は

「り災証明」をの取得をはずすという被災地もある。

28 世帯の店舗付住宅の希望がある。土地が決まって場所も集約しても、途中で店舗をあきらめる世帯発生も予想される。確約の出店計画の提出を義務づけては？限られた世帯の中での商店経営の厳しさもある？低地部と 2 店舗建設経営はむずかしい？また、店舗場所の優選決定は不公平ではないか。

雨水排水は、地下に対策を講じ、土砂のすべり止めなどをおこない、大雨で地下治水とならないときは、道路を雨水が流れ、地区としての災害対策を確保されている。

〔西団地〕 9 月 29 日(月) PM6:30 役場 2 階

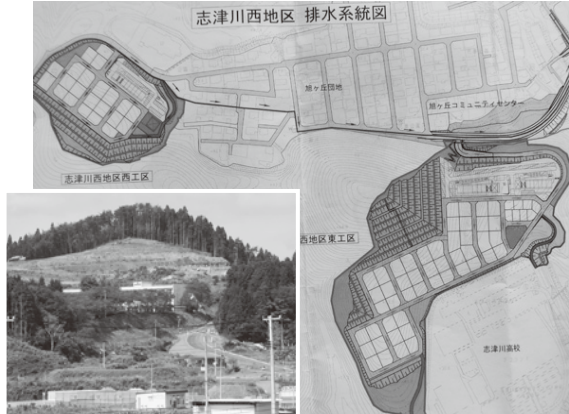
・検討事項 ①土地利用計画(街区形状の確定)②法面保護・雨水排水計画③東工区・西工区の希望確認
隣接する行政区と地区割りについて、区長関係者とのヒアリングの実施も必要ではないか。店舗付き住宅については 6 世帯が希望している。

土地の大・中・小の配置に関しては、基本的には 100 坪であり、80 坪希望の方の残った 20 坪を、大きめの土地希望者に配分できるかは、意向調査の後になる。

西地区の西の造成地の土取りの、トラック運搬道路は残せないのか、との案が出たが、この道路は造成時だけのもので、斜度が 13 度あり、土地の取得や整備を考えると無理である。

西地区は東が 46 世帯で西は 24 世帯の、合計で 70 世帯となり、顔合わせを 12 月に予定している。グループ希望に関しては、抽選に外れた場合に再度抽選となり、グループの解消も今後考慮に入れる。

西地区は全てが切り土であり、法面は土砂災害を防止する工法をとり、法面には吹き付け工事を施す。



第3回輝くみらいづくり部会

10 月 21 日(火) PM6:30 ポータルセンター

〔協議事項〕①たくさんの人に住んでもらうためには

- ・皆さんは、南三陸町になぜ住んでいますか？
- ・これから南三陸にたくさんの人に住んでもらうためには、どうすれば良いと思いますか？

新コーナー (皆様の紙面掲載希望) にお答えします

故人 沼倉 せい子 喪主 沼倉昭伍
(平成 26 年 4 月 14 日逝去)

本年 去る 4 月 14 日 妻せい子が 24 年間の闘病生活の末永眠致しました
生前の皆様のご交誼に深く感謝しこの場をお借りして御礼を申し上げます

登米市に移転した方々による「谷川賢作ジャズコンサート」開催

9 月 7 日に登米市で行われた「谷川賢作コンサート」は、東北ツアーの 2 カ所目にあたり、前日は古川で開催され明日は岩手水沢に行き、3 日間のツアー開催だと言う。ジャズコンサートでは小さい会場ながら、ジャズファンが会場を埋め尽くした。

登米市の会場は「田園喫茶店」で 70 名余りの来場者があった。1 割が南三陸町にゆかりの方で、大多数が登米市の皆さんだった。佐沼のピアノ店が尽力され、戸倉折立の佐々木さんが賢作さんの繋ぎ役で、笹原診療内科の笹原先生のバックアップ、仲間がそれを支援した。登米市佐沼の安心安定した街、多くの市民がいるこの街でのコンサート開催は、登米市民と南三陸町から生活の地を佐沼に移した方々との交流が生まれた機会となった。

賢作さんは谷川俊太郎さんの息子さん、志津川でも惣内の杉田さんの会場でジャズコンサートを以前開催し、南三陸町の方々にも多くの愛好家がいる。

人のつながりから生まれた 木内秀信コンサート!

5 月 29 日新沼田団地の手前にオープンした「ランチ&コーヒー・リッチー」で、「木内秀信」の

ミニライブが 9 月 27 日開催された。

リッチーさんでのミニライブは何の宣伝も無く、無料のコンサートで、30 名余りの来客の中、トークに木内さん独特の歌風に癒しの一時だった。また、彼は声優でもあり「テニスの王子様」の忍足侑士役をしていると言う。

今回のライブには人と人との繋がりから実現した。店で働くボランティアの方とパーカッションメンバーが知人と言う事で、仙台のライブの前日に南三陸町に来てくれた。木内さんも阪神淡路の大震災体験者で、被災地支援に来てくれた「沖縄自衛隊隊員の姿がかっこよく、迷彩服にあこがれた。」と話す。震災直後に南三陸町にも沖縄自衛隊が被災地支援に来てくれた事をも思い出す。何かの縁があった気がする。

来場者には長崎・岡山・東京と全国からのファンも集まった。13 時間掛けて被災地「南三陸町」まで来たとの、観客とのトークで知った。被災地の為に支援ライブで町外からの来町者には感謝したい。



南三陸の志津川・歌津 伊里前の商店街再生へ

東日本大震災で津波被害を受けた 2 地区の「震災復興商業施設」の整備説明会が 9 月 28 日に南三陸ポータルセンターで開催された。

仮設商店街からの移転を 16 年 12 月の開業を目指す。まちづくり会社を設立し、開業に向けた整備・運営を図り商工会と町が支援する。

志津川地区については、八幡川左側の五日町の「観光交流ゾーン」の約 2 ha に、歌津伊里前地区は現在の「福幸商店街」の周辺約 1.2ha を予定するが、かさ上げの事業手法が決まっていないため、基盤整備が大幅に遅れる。

まちづくり会社

「南三陸まちづくり未来」(仮称) 設立へ

町有地を借りて「まちづくり会社」が一括建設し、町内外の出店者を募集し貸し出す。志津川地区は 40 店、歌津伊里前地区は 20 店を予定している。

各店の規模は 50~150 m²で、1 m²当たりの出資金は 1 万円以上で、月額賃料、共同管理費は 1500~1900 円を予定する。建設から出店者の確保など、統べての商店街の運営を担う事となる。

両商店街の経営者は再び資金が必要となり、新天地で経営に新たな長期低利資制度が求められる。被災地において失敗のできない事であり、町の出資支援の必要と関係者は語る。

五日町の嵩上げ地から 志津川地区商店街を望む



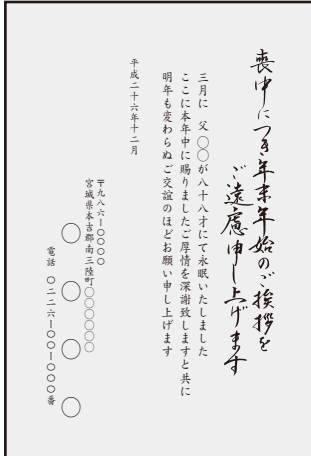
千葉印刷

TEL 0226 (46) 3069

年賀状・喪中印刷受付中!!

年賀状見本

喪中見本



(他にも見本がございます)

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年)

8月の出来事

～地元報道より～

◇7月31日特別養護老人ホーム「慈恵園」の落成式が行われた。震災で入所者・職員合わせて49人が亡くなり悲しみを乗り越えて入谷地区に新施設が完成した。

◇8月1日から「入谷・名足災害公営住宅」入居開始。気仙沼・本吉地方第一号となり、入居者からは喜びの声が寄せられた。空室もあり再募集も今後図っていく。

◆8月2日第63回気仙沼みなとまつり開幕。パレードや、はまらいやで全国に元気を発信。

◆気仙沼市の国保運営一段と厳しく。復興が進む中で高齢者の医療負担が増加し、若者の加入が減少し運営は年々厳しくなっている。

◇総務省県漁協は東日本大震災での漁業無線局を県内12局から3局へと集約する事を示した。「唐桑局を残して」と漁民は求めているが、北部は志津川でカバーする。

◇南三陸町の間伐材を活用し、NTTドコモがグッズ販売をしている。今回3回目となるその一部を寄付した。昨年2月2千万円、9月に413万円、そして今回820万円を「CO2クレジット」を購入し、再生エネルギー事業に役立てられる。

◇戸倉小の建設入札不調。随意契約で業者選定となり、今秋にも着手できる事が可決された。戸倉団地西側で鉄骨2階建て校舎と体育館は木造造りとし、災害時の避難所機能をもたせ、2階は多目的ホールとし住民の交流施設とする。

◆気仙沼市鹿折災害公営住宅が、予想を上回る労務費の高騰により入札不調となる。また入居遅れが心配となっている。

◆気仙沼市は「過疎地域指定」を受け、過疎自立促進計画案の意見を市民から募集する。

◇南三陸町教育事務所管内の小学校研究協議会が開催され、本吉はまなすホールに約1千人が集まった。教育方法やスキルアップについて交流し考え合った。

◇交通事故多発時期を前に、気仙沼・南三陸署初の合同キャンペーンを行った。国道45号を通行する車に注意を呼び掛けた。

水尻川の架橋工事急ピッチ



今シーズンは、サケ遡上捕獲の施設設備もなく、水門も解体もされないまま、国道45号の整備工事が進む

◇南三陸警察署は、7日午前2時入谷鏡石で緑石に衝突した志津川字小森の建設作業員男性(55才)を、酒気帯び運転の疑いで逮捕した。

◇南三陸町は市街地再生を具体化するために、第三セクター「まちづくり会社」を設立する。隈氏のランドデザインを実現するため、民間のアイデアを積極的に取り入れ、事業の展開をしていく。

◇町内の公的施設10ヶ所に太陽光設備建設を議会で可決した(役場・歌津支所・平成の森・ベイサイドアリーナ・歌津中・戸小など学校施設)。

◆気仙沼市の7月末現在の人口67865人(－23人)、26029世帯(+17)で、人口減の中で世帯増加が被災自治体にみられる。復興支援の若い人材が市町に住み暮らす状態が見られる。

◇佐藤仁町長トップセールスで台湾へ！被災地の風化による観光客の減少がみられる中で、外国人観光客の呼び込みに、標識整備やDVDの作成を行う。被災支援のお礼に台湾を訪問し、観光客の誘致へ町の魅力を発信する。日本への外国からの観光客は10月で今年1千万人を超えた。その内100万人が台湾からの観光客で、中国・韓国のアジア圏がそれに続く。

◇南三陸地区安全運転管理者会が「飲酒運転根絶」の2千人の署名を南三陸署に提出した。

①飲んだら乗らない、乗るなら飲まない

②飲んだ人に車を貸さない

③運転する人に酒を出さない、など。

◇「おらほの町づくり支援」で南三陸町は2次募集をする。町の活性化を図る事業に補助金を支出する。事業内容は4種類あり、30万～100万円とふるさと納税の1千万円を資金に充てる。1次募集では、10団体558万円が採択されている。

大久保の小松原から大森地区の造船所工場を望む。海底に沈んだ漁民のカキ処理の作業所だった場所は嵩上げが進められている。



旧南町地区のカキむき場はポートパークに?

◆気仙沼市は「震災遺構を後世へ」と、鹿折地区に打ち上げられた共徳丸を3Dで復活させた。市が映像を制作し公開する。ビジュアルセンターと海の市で観光客にリアルに怖さを伝える。

◇歌津「復興夏まつり」が10日・11日と開催された。当日は大雨のため会場を歌津中に移し、各種イベントが開催され、漂流のポストも披露された。

◇「みやぎ南三陸海宝弁当～地元漁師のごっつおう編」として、仙台・東京駅で販売中！志津川の特産品のタコ・銀ザケをふんだんに盛り込み弁当にした。

◇長野県上田市から南三陸町の体育協会・スポーツ少年団への義援金の支援があり、このほど支援金を活用して、野球で交流を深めた。南三陸町からは「伊里前ブルーオーシャンズ」が上田市の子供たちと、野球を通じて親睦を図った。「こんどは南三陸町に来て下さい」と、今後も継続支援交流を上田市と深めていく。

◇[町民の声] 3年半の仮設生活から、自治会の会長の自己再建や役員改選で受け手がなく、自治会の活動休止や自治会長の不在など、住民の交流やつながりが薄れている。

◇南三陸町「さんさん商店街」で盆踊りが開催され、100人の輪ができ賑わった。

◇[町民の声] さびしい、つらいと仮設での独居の方々が言う。被災者・つなぎ雇用が今年いっぱいとなり、心の痛みの癒えない仮設生活者へ、見守り事業の継続が困難となる今後、不安を口にする。

◇南三陸町歌津田の浦で、滋賀県の大学生が地域の再生にと、番屋復旧やイベントなどの開催で、地域復活の原動力となり活気を生んでいる。

◇南三陸署の巡査長が、お年寄りに腹話術でユーモアたっぷりに交通指導を、仮設で行っている。

「東浜団地」9月7日見学会



町・協同企業体から現況報告があり、1回目の見学会には70名を超える住民が集まった。登米市の仮設からも送迎バスでの現地見学も実施された。

五日町の嵩上げ地より防災庁舎を望む



志津川地区の嵩上げの現場説明会場からの眺めで、眼下の都市整備の説明を町職員が丁寧にしてくれた。

◆昨年3月から「気仙沼ファンクラブ」の会員を募集し、全国47都道府県から5千人の入会となった。海外からの希望者もあり交流人口の拡大につながっている。市は特典の充実を図り、現在月50人の入会から、益々の会員増加も求めている。

◇18日岩手沖でサンマ船から火災発生。志津川の司厨長が行方不明となっている。

◇志津川自然の家では、海の体験メニューを再開する。観光振興にもつながると町は期待している。

◆気仙沼市立病院は、29年11月の開院へのめどが立った。再入札で大成JVが落札となった。

◇全国消防救助大会に志津川消防署チームが出場する。本吉・気仙沼広域消防本部からは19年ぶりの大会出場となる。

◇南三陸町社会福祉協議会主催の「地域福祉フォーラム」が入谷「いりやど」で開催され、気仙沼・石巻・登米などから90名の職員が参加した。今後も仮設住宅への継続支援が必要など、多くの被災地の問題について話し合った。

◆気仙沼市立病院は入院患者減少で赤字が膨らんでいる。累積欠損金は56億3500万円となり、前年度より5億円が増加している。一般会計より10億円の繰り入れをしても、単年度での赤字を穴埋めはできなく、健全化検討委員会の立ち上げを進めている。

十日町・本浜町・大森の今を望む(9月7日)



この地区には被災した商店の再建と水産加工工場が整備される。国道45号線も10mの嵩上げをして現地より多少内陸に動線の変更を予定し整備する。

◇上半期の消防統計で建物火災が倍増している。救急出動は減っているものの、火災による損害額が6倍と膨らんでいる。(気仙沼・本吉消防本部)

◆気仙沼市教育委員会は学校の統合第2段階として、馬籠小を皮切りに地域懇談会を予定する。

◇来春、仙台市で開催される「国連防災会議」に合せ、被災地復興をタブレットを活用した、外国人誘致客ツアーの実証実験をおこなった。

◇国の被災地活用の制策緩和により、町の災害危険区域で買い取った土地と、市街地区画整理事業から外された土地との交換を進めている。

◇フランス、パリで開催される「東北復興祭」に、東日本大震災復興PRイベントとして戸倉中学校出身の高校生11人が、戸倉地区の伝統芸能「水戸辺行山流鹿子躍」を披露した。

◇25年度の南三陸町ふるさと納税が497件2999万円となった。

◇南三陸町の宅地買い取りが、相続・抵当権などの障害で難航しているものの、住民80.2%の土地買い上げが完了した。(9月15日現在)

◇秋サケ漁が始まり、河川の稚魚・種卵が不足ならば、県は定置網・刺し網などの海での秋サケ漁の網上げの協力をお願いする。今年は震災時の放流時の回帰の年にあたる。

◇震災遺構の「防災庁舎解体」は、南三陸町佐藤仁町長は変わらず。

◇南米コスタリカからの視察団。今回の大津波は「人ごとではない」と、南三陸町戸倉地区仮設住宅も訪れた。

文面の写真は自社撮影の、最近の志津川地区の復興工事の風景です。